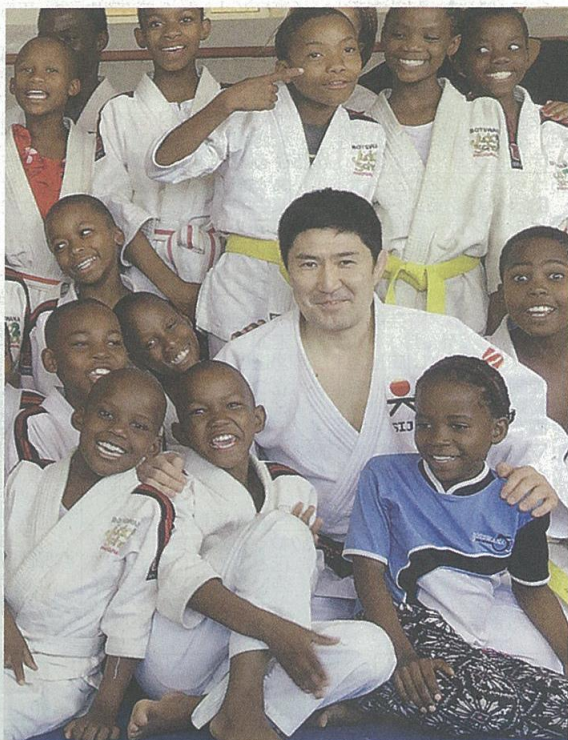


# 柔道の楽しさ 世界に



現地の子どもたちに囲まれ、記念写真に納まる蹴揚将行さん(蹴揚さん提供)

## 蹴揚さん(三沢) ボツワナで指導

NPO法人柔道スポーツ育成会(三沢市)の理事長で、八戸学院大柔道部の監督を務める蹴揚将行さん(46)は三沢市在住だが、2月から3月にかけての約2週間、アフリカのボツワナ共和国で柔道の指導に当

たった。回国訪問は2度目だったが、普及に手応えを実感した様子。「世界に柔道の楽しさや礼節の大切さを伝えることが使命」と強調し、今後も国内外で活動を展開する考えだ。(金濱千優希)

三沢出身の蹴揚さんは現役時代、全日本強化選手に指定された実績がある。指導者である現在は柔道の「未開の地」アフリカを中心に、礼節や技術を伝えている。ボツワナ訪問は2012年以來、今回は蹴揚さんに滞在した。2年以前、柔道着50着を寄贈したほか、小学生や社会人、指導者を対象とした柔道教室を開催。1日に3回、

## 「未開の地」普及に手応え

教室を開くなどハードスケジュールの毎日だったが、生徒のレベルに合わせる基礎から応用に至るまで技術を指導。「日本で柔道を学びたいと話す子もいた」と充実感を見せた。

また、蹴揚さんの大学の後輩で、13年から同国で青年海外協力隊員として活動し、14年10月に不慮の事故で亡くなった井坪圭佑さんをたたえる柔道場も訪れて、前回訪問時に指導した生徒とも再会した。

礼節を重んじる柔道の基礎が身に付いた生徒たちを目の当たりにし、「回国で柔道の基礎を作ってくれた」と後輩の功績を再認識。中には、五輪出場を果たした選手もおり「柔道に真剣に取り組んでいたことが分かった」と目を細めた。

今後も同様の活動を続ける方針。ボツワナの発展にも刺激を受けた様子で、「20年東京五輪や25年青森国体を視野に入れた人材育成にも力を入れたい」と決意を新たにしていた。